

「コロナとの共生を」

熊日情文懇 長崎大・山本教授講演

熊日情報文化懇話会（会長・河村邦比見熊日社長）の12月例会は9日、熊本市中央区のホテル日航熊本で55人が参加しており、長崎大熱帯医学研究所（長崎市）の山本太郎教授（56）が「withコロナ社会の見取り図 ウイルスとの共生の視点から」と題して講演した。

新型コロナウイルスの特徴について、山本氏は「変容しやすい上に、症状の無い少数の感染者が多くの人に拡散させている点（類似点が指摘される）SARS（重症急性呼吸器症候群）と異なる」と指摘。「もはや根絶することはできない」とした。そのため、「必要なのはウイルスとの『戦い』」



長崎大熱帯医学研究所の山本太郎教授（円内）が「withコロナ社会の見取り図 ウイルスとの共生の視点から」と題して講演した熊日情報文化懇話会12月例会＝9日、熊本市中央区

ではなく「共生」として、「緩やかな流行の中で、人口の一定割合が集団免疫を獲得することによって収束が達成される」と見通した。一方で、人類と感染症の歴史をひもとくと「パンデミックは社会変革の先駆けになり得る」と解説。「テレワークを可能にした情報技術（IT）の普及など、コロナは生活に大きな変化をもたらし、先進国では今後人口減少が加速する。そうした流れの中で、どのような社会をつくらうかが大きな課題だ」と語った。（川崎浩平）